

# 『歯みがきの常識・非常識』

～行動科学に基づいたブラッシング用具の選択と使い方～

- ◎ブラッシング指導を繰り返しても十分なブラッシングが定着しない・・・どうして？
- ◎健康な状態を保つために定期的なメンテナンスの必要性を説明しても何故か応じてもらえない・・・
- ◎ムシ歯を効果的に予防するためにはフッ素入り歯磨剤をどのように活用すればよいのだろうか？



## 『歯ブラシのソムリエ』 高柳篤史先生

をお招きして日常臨床で遭遇する疑問・  
問題点を科学的に解き明かし、解決の  
手助けをしていただきます♪

2012年

11月25日(日) PM 1:00～3:00

(開場 PM12:00)

会場 **新潟県歯科医師会館** 2F 研修室  
新潟市中央区堀之内南 3-8-13

参加費 **1,000円**(職種・資格は問いません)

高校生・大学生は無料

\*お申し込みは松田歯科医院宛にメールでお願いいたします

eMail [cxr01005@gmail.com](mailto:cxr01005@gmail.com)

講師紹介 高柳 篤史 先生 (歯学博士、高柳歯科医院)

#### 御 略 歴

平成元年3月 東京歯科大学卒業  
平成元年5月 川崎市作間歯科医院勤務(平成4年3月まで)  
平成8年3月 東京歯科大学大学院歯学研究科修了  
平成8年4月 東京歯科大学衛生学講座研究助手  
平成10年4月 埼玉県幸手市・高柳歯科医院(現在に至る)

#### 講 演 内 容

日常のブラッシング行動は歯科疾患の予防や治療経過にも大きく影響します。しかしながら、日常臨床において「ブラッシング指導を繰り返しても十分なブラッシングが定着しない」「定期健診に応じてくれない」などといったことが原因で、十分な治療効果が得られないことを経験した方も多いのではないのでしょうか。その原因の一つに臨床現場では、小さく、シンプルな歯ブラシを使用し、小刻みに動かし、時間をかけて歯みがきをすることが画一的に推奨されている傾向があることが考えられます。医療現場の事情から、1種類の歯ブラシをもちいて、同様の指導を画一的に行うことは、とても行いやすいものですが、個々の患者さんの口腔内状況や保健指導の受容性に合った道具の選択や個の多様性に配慮した指導が大切です。

そこで、これまでの行動科学的知見を活用するとともに、市販されている多種多様な口腔ケア用品の機能と特徴を十分に理解することによって、個々の患者さんに適した歯ブラシや歯磨剤を選択するだけでなく、口腔ケア用品を患者さんとのコミュニケーションツールとして活用することによって、患者支援のための保健指導の幅を広げてみてはいかがでしょうか。

また、近年、科学的根拠に基づく医療が重要視され、口腔保健の分野においても、各国で、口腔保健に関するガイドラインがまとめられています。それらの中で、フッ化物による齲蝕予防効果は科学的根拠が明確になっており、特に、WHO(世界保健機構)は先進諸国の齲蝕の減少には、フッ素入り歯みがき剤の普及が大きく寄与しているという見解を述べています。そこで、今回、フッ化物配合歯磨剤の効果的な使用方法についても、述べる予定です。

#### 主な著書、論文

モチベーションを上げる15のアドバイス(編著)クインテッセンス出版 2009  
ヘルスケアの処方箋(共編著)医歯薬出版 2009  
口腔保健推進ハンドブック(共著)医歯薬出版 2009  
困った患者さんにどう活かす 診療室の行動科学(共著) クインテッセンス出版 2008  
歯肉縁上のプラークコントロール(共著) 医歯薬出版 2004  
唾液の科学(共訳) 一世出版 1998  
歯みがき・歯ブラシ大図鑑(共著) 医学情報社 1999  
歯磨きのソムリエになる デンタルハイジーン Vol.28(No1~6)医歯薬出版 2008  
生涯にわたって歯を保つために 歯科衛生士2008. 4月